

令和7年度

各教科の年間指導計画 及び 評価計画【3学年】



東久留米市立下里中学校

1 国語科

(1) 観点別学習状況の評価例

■教科の目標 ※『学習指導要領』 (平成29年告示)参照	知識及び技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等
	社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができるようにする。	「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、筋道立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを確かなものにするようにする。	言葉を通じて積極的に人と関わったり、思いや考えを確かなものにしたりしながら、言葉がもつ価値に気付くとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。
■教科の「評価の観点及びその趣旨」 ※『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料』参照	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりしている。	「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、筋道立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを確かなものとしている。	言葉を通じて積極的に人と関わったり、思いや考えを確かなものにしたりしながら、言葉がもつ価値に気付くとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとしている。
○授業の構想と学習評価例	○漢字 学年別漢字配当表の漢字のうち900字程度の漢字を書き、文や文章の中で使っている。 (授業プリント・テスト) ○古典 古典には様々な種類の作品があることを知っている。音読に必要な文語のきまりや訓読の仕方を知り、古文や漢文を音読し、古典特有のリズムを通して、古典の世界に親しんでいる。 (授業プリント・テスト) ○書写 字形を整え、文字の大きさ、配列などについて理解して、楷書で書いている。漢字の行書の基礎的な書き方を理解して、身近な文字を行書で書いている。 (毛筆・硬筆【作品】) ○文法 共通語と方言の果たす役割について理解している。単語の類別について理解している。 (授業プリント・テスト)	○発表・グループワーク ・目的や場面に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を整理し、伝え合う内容を検討している。 ・必要に応じて記録したり質問したりしながら話の内容を捉え、共通点や相違点などを踏まえて、自分の考えをまとめている。 (授業の取り組み・授業プリント) ○作文 読み手の立場に立って、表記や語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えている。 (授業の取り組み・授業プリント) ○教科書本文読解 文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えている。文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものになっている。 (授業の取り組み・授業プリント)	○話すこと 積極的に集めた材料を整理し、学習の見通しをもって報告しようとしている。 (授業の取り組み・授業プリント【振り返り】) ○書くこと 粘り強く自分の考えが伝わる文章になるように工夫し、学習の見通しをもって説明する文章を書こうとしている。 (授業の取り組み・授業プリント【振り返り】) ○読むこと ・粘り強く文章の要旨を把握し、学習の見通しをもって理解したことを報告しようとしている。 (授業の取り組み・授業プリント【振り返り】)

(2) 年間指導計画

国語科の目標

- 社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けさせる。
- 論理的に考える力や共感したり想像したりする力を養い自分の思いや考えを広げたり深めたりさせる。
- 言葉がもつ価値を認識し言語文化を大切にして、思いや考えを伝えさせる。

国語科 3学年の目標

- 社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けさせる。
- 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を養い、社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高めさせる。
- 言葉がもつ価値を認識し、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。

月	単元名	指導内容	評価方法
4	・「世界はうつくしいと」 1、深まる学びへ ・「握手」 漢字に親しもう1 文法への扉 1	・プリントの空欄を埋める。抜き出しだけでなく、自分の言葉でまとめる。回し読みすることにより、他人の考えに触れ、考えを深める。 ・表現上の工夫に注意し、筆者の思いを捉える。 ・登場人物のエピソードや言葉に着目して、登場人物同士の関係を読み取らせる。	観察・ノート プリント・テスト
5	・説得力のある構成を考えよう ・学びて時にこれを習ふ ―「論語」から ・相手や場に応じた言葉遣い	・プリントの回し読み後、小グループで話し合い、自分の考えと比較し評価しながら相手の考えを聞く。 ・相手との間柄や場などを踏まえて、言葉遣いを選ぶ必要があることを理解させる。	観察・ノート
6	2、視野を広げて ・作られた「物語」を超えて ・思考のレッスン ・論理の展開を意識して書こう ・漢字1 熟語の読み方 ・漢字に親しもう2	・文章の中における語句や図の使い方などに注意して読み、筆者の論理の展開のしかたを捉えさせる。 ・書いた文章を読み返し、文章全体を整えさせる。 ・多様な読み手を説得できるよう、論理の展開を考え、文章の構成を工夫させる。 ・意味の分からない言葉は国語辞典で調べさせる	プリント・テスト
7	3、言葉とともに ・俳句の可能性 俳句の創作教室 ・俳句を味わう ・言葉の釣り糸を垂らす ・言葉2 和語漢語外来語 ・語彙を豊かに ・実用的な文章を読もう ・報道文を比較して読もう 情報の信頼性 ・読書を楽しむ ・「私の一冊」を探しにいこう 「羊と鋼の森」 本の世界を広げよう 読書コラム ためになるってどんなこと？	・俳句を読み味わうとともに、感動が伝わるように、俳句を作る。 ・題材を決め、論理の展開や表現を考えて批評文を書かせる。 ・状況や相手に応じて言葉の選び方や伝え方を考えた表現を探す。 ・和語・漢語・外来語・混種語の性質や特徴について理解させる。 ・2つの文章から青田市ではそれぞれの物をどのように分別したらよいかを読み取る。 ・グループを作り、実用的な文章には他にどんなものがあるか具体的な例を身の回りから挙げさせる。 ・表に整理したことを基に、記事について気付いたことや考えたことを300字程度にまとめさせる。	観察・ノート プリント・テスト 発表

9	4、状況の中で ・「挨拶——原爆の写真によせて ・「故郷」 「推敲」論理の展開を整える	・表現に着目して詩を読み詩に表現されている内容と、現実の世界の在り方とを対応させながら読ませる。 ・作品を通して人間と社会との関わりを考え、自分の意見をもつ。 ・情景や人物を描写する語句や表現に注目しながら読ませる。	観察・ノート プリント・テスト 発表
10	聞き上手になろう 質問で相手の思いに迫る ・言葉3 慣用句・ことわざ・故事成語 ・漢字2 漢字の造語力 漢字に親しもう	・時間や場の条件に合わせてスピーチをさせる。 ・進行のしかたを工夫する。 ・慣用句・ことわざ・故事成語などの知識を広げる。 ・さまざまな文章を集め、工夫して文章を編集する。	観察・ノート プリント・テスト
	5、自らの考えを ・複数の意見を読んで、考えよう 一正解が一つに決まらない課題と向き合う ・考えを効果的に伝えよう 多角的に分析して書く 漢字に親しもう3 文法への扉2 「ない」の違いがわからない？ 音読 「初恋」	・二つの説明文を読み比べ、構成や展開、表現のしかたについて学ぶ。 ・社会生活の中の話題について、相手を説得するために意見を述べ合う。 ・2年までに学習した文法の知識を確かめ、理解を深める。 ・情報化社会の可能性と困難について学び、自分の意見をもたせる。 ・言葉や表現の工夫などに注意しながら、筆者のものの見方や考え方を読み取らせる。	観察・ノート プリント・テスト
11	6、いにしえの心を受け継ぐ ・和歌の世界 ・音読を楽しむ 古今和歌集 仮名序 ・君待つと 一万葉・古今・新古今 ・夏草 —「おくのほそ道」から ・つながる古典 ・古典名作選	・「古今和歌集 仮名序」の冒頭部分を音読し、古典の世界に親しむ。 ・語句や表現の工夫に注意しながらそれぞれの和歌を読み味わう。 ・歴史的背景などを想像し、作者のものの見方や感じ方を読ませる。 ・古典の一節や言葉を引用して自分の思いを伝える文章を書く。 ・筆者の主張をとらえ、自身のありかたを考え発表をする。	観察・ノート プリント・テスト 発表 観察・ノート プリント・テスト

12	7、価値を生み出す • それでも、言葉を「話し合い(進行)」話し合いを効果的に進めよう - 漢字3 漢字のまとめ - 漢字に親しもう4 • 合意形成に向けて話し合おう • 行書の練習 • 書初め いつも本はそばに • 本は世界への扉 天、共に在り - 極夜行	• 言葉に対する筆者の考えを捉える • 納得したこと、共感したこと、わからないこと、疑問に感じたことなどの視点に沿って、本文に線や記号を書き込みながら読ませる。 • 進行役の発言の効果を考える。 • 言葉との向き合い方について自分の意見をもつ。 • 同訓異字や同音異義の漢字を調べ、使い分けができるようにさせる。 • 議題を決めさせ、グループで提案を考える。 • 全体会を開き、最後に合意形成のポイントを振り返らせる。 • 点画の方向や形の変化、連続の仕方を指導しその部分をもつ漢字を書かせる。 • 文法についての理解を深め、日常生活の中での表現や読解に生かす。 • 教科書 P56 の欄外を見て回答を確かめ、点画の省略や筆順の変化など、設問に関連のある知識を確認し、定着させる。 • 校内書き初め展へ向けて作品を書かせる。	観察・ノート プリント・テスト
1	8、未来へ向かって 温かいスープ アラスカとの出会い 律儀な桜	• 現代社会の可能性や困難、生き方について、自分の考えをもつ。 • 本文を読み、これからの自分の生き方について意見をもつ。 • 三年間の漢字学習の総まとめとして、漢字の意味や読み方などについて調べ、適切に使い慣れる。 • 三年間の国語の学習を振り返り、冊子にまとめる。 • 「学習の窓」を一覧し、3年間で学習したことを振り返る。	観察・ノート プリント・テスト
2	わたしを束ねないで 漢字に親しもう5 • 三年間の歩みを振り返ろう 冊子にまとめて、発表会をする		
3	◎これまでに学習したことを生かして、卒業を記念する作品を作ることができる。		

2 社会科【歴史分野】

(1) 観点別学習状況の評価例

■教科の目標 ※『学習指導要領』 (平成29年告示)参 照	知識及び技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力人間性等
	我が国の国土と歴史，現代の政治，経済，国際関係等に関して理解するとともに，調査や諸資料から様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	社会的事象の意味や意義，特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり，社会に見られる課題の解決に向けて選択・判断したりする力，思考・判断したことを説明したり，それらを基に議論したりする力を養う。	社会的事象について，よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに，多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される我が国の国土や歴史に対する愛情，国民主権を担う公民として，自国を愛し，その平和と繁栄を図ることや，他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。
■教科の「評価の観点及びその趣旨」 ※『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料』参照	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	我が国の国土と歴史，現代の政治，経済，国際関係等に関して理解するとともに，調査や諸資料から様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付け活用している。	社会的事象の意味や意義，特色や相互の関連を多面的・多角的に考察し，社会に見られる課題の解決に向けて思考・判断できる。思考・判断したことを説明したり，それらを基に議論したりすることができる。	社会的事象について，よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようすることができる。多面的・多角的な考察や深い理解を通して，国民主権を担う公民として，その平和と繁栄を図ることや，他国や他国の文化を尊重することができる。
・授業の構想と学習評価例	・現代社会の特徴である、少子高齢化社会がどのようなものであるか、説明できる。 ・少子高齢化の実態を、グラフや表など資料をもとに読み取ることができる。 ・合計特殊出生率など用語を理解して使いことができる。 《授業での取り組み》 ・グラフをもとに、少子高齢化の進行を読み取り、40年後の人口構成から将来自分の置かれる立場を考え文章化する。 《評価》 ・グラフから40年後の自分の立場を理解し、少子高齢化の進行について理解し、文章化できる。 ・提出物、ワークシート、定期考査、ノート	・少子高齢化の原因を、少子化・高齢化それぞれについて考えることができる。 ・少子高齢化による影響を、利点・課題点それぞれを考えることができる。 《授業での取り組み》 ・少子高齢化の原因をそれぞれ考え文章にする。 ・少子高齢化による影響を利点・課題点それぞれ考え、まとめ意見を交流する。 《評価》 ・少子高齢化の原因を考えまとめることができる。 ・少子高齢化の影響を利点・課題点それぞれを考えまとめ発表し、他者の意見をもとに視野を広げることができる。 ・ワークシート、定期考査、ノート	・少子高齢社会について、前向きに考え、より良い社会生活を送るための手立てを考えることができる。 《授業での取り組み》 ・少子高齢社会の利点・課題点をもとに、より良い社会生活を送るために必要なしくみを考える。 《評価》 ・少子高齢社会の利点・課題点をもとに、持続可能な社会生活を送るために必要なしくみを複数の視点で考え文章化することができる。 ・レポート、定期考査、ワークシート、ノート

(2) 年間指導計画【歴史分野】

社会科の目標

社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を次のとおり育成することを目指す。

社会科 第3学年の目標

《歴史的分野》社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を次のとおり育成することを目指す。

月	単元名	指導内容	評価方法
4	第5章 開国と近代日本の歩み 4節 日清・日露戦争と近代産業	○以下の内容について知識を活用し、我国の歴史の大きな流れを各時代の特色をふまえて理解していると共に諸資料からも歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめる。 ・日清戦争、日露戦争にともなう日本の国際的な立場や影響。 ・第一次世界大戦による民族運動の高まりと国際協調の動き。 ・第一次世界大戦前後の国際情勢及び我が国の動きと、大戦後に国際平和への努力。 ・経済の社会的な混乱と社会問題の発生、昭和初期から第二次世界大戦の終結までの我が国の政治外交の動き。 ・中国などアジア諸国との関係、欧米諸国の動き戦時下の生活などを基に、軍部の台頭から戦争までの経過。	ワークシート ノート レポート ワークなど提出物 定期考査などテスト 授業中の観察
5	第6章 二度の世界大戦と日本 1節 第一世界大戦と日本 2節 大正デモクラシーの時代 3節 世界恐慌と日本の中国侵略		
6	4節 第二次世界大戦と日本		
7			
9	第7章 現代の日本と私たち 1節 戦後日本の出発	○以下の内容について知識を活用し、歴史にかかわる事象の現在とのつながりなどに着目して多面的多角的に考察したり、思考判断したことを説明したり、それらを元に議論したりする。 ・冷戦、我が国の民主化と再建の過程、国際社会への復帰。 ・高度経済成長、国際社会との関わり、冷戦の終結などを基に、我が国の経済や科学技術の発達による国民生活の向上。 ・これまでの学習を踏まえ、歴史と現在と未来の日本や世界の在り方。	ワークシート ノート レポート ワークなど提出物 定期考査などテスト 授業中の観察
10	2節 冷戦と日本の発展 3節 新たな時代の日本と世界		

(2) 年間指導計画【公民分野】

社会科の目標

社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を次のとおり育成することを目指す。

社会科 第3学年の目標

《公民的分野》現代社会の見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を次のとおり育成することを目指す。

月	単元名	指導内容	評価方法
4	第1章 私たちが生きる現代社会と文化の特色	○以下の内容について知識を活用し、現代社会の課題について多角的多面的に考え表現する。持続可能な社会の形成を視野に課題解決の手立てを考え表現する。 ・現代社会の特色 少子高齢化・情報化・グローバル化 ・文化の意義と影響 ・社会の在り方 対立と合意・公正と効率・個人の尊厳と両性の本質的平等・契約と責任 ・人間の尊重と法の意義（法の支配・象徴天皇制） ・日本国憲法の三原則 ・人権の意義	ワークシート ノート レポート ワークなど提出物 定期考査などテスト 授業中の観察
5			
6			
7			
9	第3章 民主政治と政治参加	○以下の内容について知識を活用し、現代社会の課題について多角的多面的に考え表現する。持続可能な社会の形成を視野に課題解決の手立てを考え表現する。 ・民主政治とは 選挙・政党政治 ・国会の仕組みと役割（議会制民主主義） ・内閣の仕組みと役割 ・裁判所の仕組みと役割（司法権の独立・裁判の種類） ・地方自治の仕組みと役割（町づくり）	ワークシート ノート レポート ワークなど提出物 定期考査などテスト 授業中の観察
10			
11			
12	第6章 国際社会に生きる私たち	○以下の内容について知識を活用し、現代社会の課題について多角的多面的に考え表現する。持続可能な社会の形成を視野に課題解決の手立てを考え表現する。 ・国際社会が抱える問題（持続可能を妨げる様々な課題） ・様々な地域が抱える課題 ・日本の領域と外交 ・国際連合の仕組みと役割 ・地域統合のはたらき	
1	終章 私たちが未来の社会を築く	○持続可能な社会の実現を目指して、多角的多面的に考えて解決すべき課題を挙げ、その理由を表現する。さらに、社会としての解決の手立てを具体的に考え表現する。	ワークシート ノート レポート ワークなど提出物 定期考査などテスト 授業中の観察
2			
3			

3 数学科

(1) 観点別学習状況の評価例 (第1学年の「数と式(1) 正の数と負の数」)

■教科の目標 ※『学習指導要領』 (平成29年告示)参照	知識及び技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等
	数量や図形などについての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	数学を活用して事象を論理的に考察する力、数量や図形などの性質を見いだし統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。	数学的活動の楽しさや数学のよさを実感して粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうとする態度、問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとする態度を養う。
■教科の「評価の観点及びその趣旨」 ※「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料」参照	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	- 数量や図形などについての基礎的な概念や原理・法則などを理解している。 - 事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。	数学を活用して事象を論理的に考察する力、数量や図形などの性質を見いだし統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・適格に表現する力を身に付けている。	数学的活動の楽しさや数学のよさを実感して粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうしたり、問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとしている。
○授業の構想と学習評価例	- 正の数と負の数の必要性和意味を理解している。 - 正の数と負の数の四則計算ができる。 - 具体的な場面で正の数と負の数を用いて表現したり処理したりすることができる。 《授業での取組》 教科書の内容を基にした学習(例題を元にした説明から、問題演習等で考え方を共有したり、教えたり教えてもらったりする学習活動) 《評価》 - 学習内容がきちんと身に付いているか - お互いの意見交換の場面で正しい表現ができているか - 数学的に表現したり、処理したりする技能が身に付いているか	- 算数で学習した数の四則計算と関連付けて、正の数と負の数の四則計算の方法を考察し表現することができる。 - 正の数と負の数を具体的な場面で活用することができる。 《授業での取組》 教科書を基に、自ら深く考えたことを互いに伝え合い、学び合える学習(考え方を共有したり、教えたり教えてもらったりする学習活動) 《評価》 - 学習した内容について、正確に表現できているか - 友達に、正しい表現で教えることができたか - 友達から教えてもらったことを基に、自力解決できるようになっているか	- 正の数と負の数の必要性和意味を考えようとしている。 - 正の数と負の数について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。 - 正の数と負の数を活用した問題解決の過程を振り返って検討しようとしている。 《授業での取組》 基本事項について自ら学ぶことができる(調べることができる)教材を提供し、取り組ませる 《評価》 - 問題演習等への取り組み状況 - 学び合い学習での活動の様子 - 各種教材(問題集)に取り組む姿勢と取り組み状況 - 学習した内容を振り返り、次に生かそうとしているか

(2) 年間指導計画

数学科の目標

基礎的な知識及び技能を習得し、数学的に考える力をはぐくむとともに、数学のよさを知り、数学が役立つことや数学と科学技術との関係などの理解を深め、事象を数理的に考察する能力と度を養う。

数学科 第3学年の目標

- (1) 平方根について理解し、計算・変形する能力を伸ばすとともに二次方程式について理解し用いる能力を養う。
- (2) 相似・円周角・三平方の定理を活用する能力を伸ばすとともに、論理的に考察し表現する能力を伸ばす。
- (3) $y=ax^2$ について理解するとともに、関数関係を見いだし表現し考察する能力を伸ばす。
- (4) 母集団から標本を取り出し、その傾向を調べることで、母集団の傾向を読み取る能力を養う。

月	単元名	指導内容	評価方法
4	第1章 式の計算(18) ・多項式の乗法と除法 ・因数分解 ・式の活用	・単項式と多項式の乗法、除法/多項式の乗法/乗法の公式 ・因数分解/因数分解の公式/素因数分解 ・式の活用	・定期考査 ・授業への取組 ・問題集 ・ノート(プリント) ・単元テスト
5	第2章 平方根(18) ・平方根 ・平方根の計算 ・平方根の活用	・2乗するとaになる数/有理数と無理数 ・平方根の乗法、除法/平方根の加法、減法/平方根のいろいろな計算	
6	第3章 2次方程式(20) ・2次方程式とその解き方 ・2次方程式の活用	・2次方程式とその解/因数分解による解き方/平方根の考えによる解き方/2次方程式の解の公式 ・2次方程式の活用	
7			
9	第4章 関数 $y=ax^2$ (18) ・関数 $y=ax^2$ ・関数 $y=ax^2$ の活用 ・いろいろな関数	・関数 $y=ax^2$ /関数 $y=ax^2$ のグラフ/関数 $y=ax^2$ の変化の割合 ・関数 $y=ax^2$ の活用 ・いろいろな事象と関数	・定期考査 ・授業への取組 ・問題集 ・ノート(プリント) ・単元テスト
10	第5章 相似な図形(20) ・相似な図形 ・平行線と線分の比 ・相似な図形の面積の比と体積の比 ・相似な図形の活用	・相似な図形/相似な図形の性質/三角形の相似条件/三角形の合同条件と相似条件/三角形の相似条件と証明/相似の活用 ・三角形と比/中点連結定理/平行線と線分の比 ・相似な平面図形の面積/相似な立体の表面積と体積	
11	第6章 円(16) ・円周角 ・円周角の定理と活用	・円周角/円周角の定理の逆 ・円周角の定理の活用	
12	第7章 三平方の定理(18) ・三平方の定理	・三平方の定理/三平方の定理の逆	
1	・三平方の定理の活用 第8章 標本調査(12) ・標本調査	・平面図形への活用/空間図形への活用 ・標本調査 ・テレビの視聴率はどのように調べているかを知る	・定期考査 ・授業への取組 ・問題集 ・ノート(プリント) ・単元テスト
2			
3	総復習(6)	・高校入試対策演習問題	

4 理科

(1) 観点別学習状況の評価例

■教科の目標 ※『学習指導要領』 (平成29年告示)参 照	知識及び技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力人間性等
	自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。	観察・実験などを行い、科学的に探究する力を養う。	自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。
■教科の「評価の観点及びその趣旨」 ※『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料』参照	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	自然の事物・現象についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	自然の事物・現象から問題を見だし、見通しをもって観察・実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。	自然の事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
○授業の構想と学習評価例	・科学的な物の見方や考え方を理解しようとしている。 ・目的に対して仮説を立て、計画的に実験や観察を行い、得られた実験結果の情報等を適切に処理しようとしている。 <評価> ・定期テスト ・実験プリント ・授業観察 ・小テスト ・レポート課題	・実験や観察を通して、科学的な物の見方や考え方を使い、科学的な様々な現象について説明しようとしている。 <評価> ・定期テスト（計算・応用問題） ・小テスト(思考系) ・レポート課題 ・授業観察	・自然科学に興味関心を持ち、科学的な物の見方や考え方を使得、探究しようとしている。 <評価> ・理科ノート ・問題集やプリントなどの取り組み ・質問紙 ・レポート課題 ・定期考査

(2) 年間指導計画

理科の目標

自然の事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

理科(生物分野・科学分野)第3学年の目標

自然の事物・現象についての理解を深め、これまで科学的な現象に対しての探求の過程を振り返る。また、科学的に探究しようとする態度を養う。

月	単元名	指導内容	評価方法
4	単元1 運動とエネルギー	1章 力の合成と分解 2章 水中の物体に加わる力 3章 物体の運動 ・運動の記録 ・運動の法則 4章 仕事とエネルギー ・仕事の原理	プリント 行動観察 提出課題 ワークシート テスト
5			
6	単元2 生命のつながり	1章 生物の成長とふえ方 ・細胞分裂 ・動物と植物の生殖 ・有性生殖と無性生殖 2章 遺伝の規則性と遺伝子 ・遺伝子とDNAの利用 3章 生物の種類の多様性と進化	プリント 行動観察 提出課題 テスト
7			
9	単元3 自然界のつながり	1章 生物どうしのつながり 2章 自然界を循環する物質 探究とまとめ	プリント 提出課題
10	単元4 化学変化とイオン	1章 水溶液とイオン ・電流が流れる水溶液 ・原子とイオン 2章 化学変化と電池 ・イオンへのなりやすさ ・電池とイオン ・いろいろな電池 3章 酸・アルカリとイオン ・酸とアルカリ ・中和と塩	プリント 提出課題 行動観察 テスト
11			
12	単元5 地球と宇宙	1章 天体の動き ・太陽の1日の動き ・四季の星座と地球の公転 ・太陽の表面	プリント 行動観察 テスト
1		2章 月と惑星の運動 ・太陽光の角度と温度の変化 ・月の形と位置の観察 3章 宇宙の中の地球 探究とまとめ	プリント 行動観察 テスト
2			
3			

5 外国語科(英語)

(1) 観点別学習状況の評価例

■教科の目標 ※『学習指導要領』 (平成29年告示)参照	知識及び技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等
	外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解するとともに、これからの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けるようにする。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。
■教科の「評価の観点及びその趣旨」 ※『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料』参照	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	・外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解している。 ・外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けている。	・コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝え合ったりしている。	・外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。
○授業の構想と学習評価例	○教科書のリスニングパート ・日常的な話題や社会的な話題について話されているパッセージを聞いて、その内容を的確に捉えている。 (→聞くこと) ○Lesson ごとの教科書準拠ワーク ・その単元で学んだことと今までに学んだ知識を用いて、事実や自分の考えなどを正しく書くことができる技能を身に付けている。 (→書くこと)	○英作文 ・今までに学んだ語彙や文法事項を用いて、テーマに沿ってまとまりある文章を書いている。また、聞き手に伝わりやすいように文章を工夫して書いている。(→書くこと) ○ALT の授業 ・今までに学んだ語彙や文法事項を用いて、テーマに沿ってまとまりある内容を話している。また、ふさわしい態度で、聞き手に伝わりやすいように、身振り手振りを取り入れ発表している。(→話すこと【発表】)	○言語活動 (ALT の授業) ・ペア活動では、自分の考えや気持ちを、学んだ表現を積極的に用いて、間違いを恐れず相手に伝えようとしている。また、相手が伝えたい内容を聞きとろうとしている。 (→話すこと【やり取り】) ○教科書本文読解 ・まとまりのある長い文章を読むときには、適宜辞書等を用いながら、必要な情報や概要、要点を捉えようとしている。(→読むこと)

(2) 年間指導計画

外国語科（英語）の目標

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を育成することを目指す。

外国語科（英語） 第3学年の目標

- (1) 初歩的な英語を聞いて話し手の意向を理解できるようにする。
- (2) 初歩的な英語を用いて自分の考えなどを話すことができるようにする。
- (3) 英語を読むことに慣れ親しみ、初歩的な英語を読んで書き手の意向などを理解するようにする。
- (4) 英語を書くことに慣れ親しみ、初歩的な英語を用いて自分の考えなどを書くことができるようにする。

月	単元名	指導内容	評価方法
4	Lesson 1 Join Us	・現在完了形 ・会話文や説明文の内容を捉える	授業における行動観察 プリント等提出物 発言・発表 定期考査 自己評価カード
5	Lesson 2 The Power of Music	・曲を紹介する記事の内容理解 ・現在完了進行形（肯定文・否定文・疑問文） ・原形不定詞 ・聞き手が必要な情報を聞き取る ・情報を付け加える	
6	Lesson 3 Cranes for Peace	・受動態（肯定文・否定文・疑問文） ・話し手が伝えたいことを聞き取る ・理由や説明を求める ・根拠を示して説明する	
7	Lesson 4 Bollywood Movies	・現在分詞、過去分詞の限定用法（後置修飾） ・聞き手が必要な情報を聞き取る ・話題を変える ・確かめる ・感情の原因を表す不定詞	
9	Lesson 5 Translating Culture	・主格の関係代名詞（that / which / who） ・話の全体的な内容を聞き取る	授業における行動観察 プリント等提出物 発言・発表 定期考査 自己評価カード
10	Lesson 6 Being Fair	・目的格の関係代名詞（that / which） ・目的格の関係代名詞の省略（接触節） ・話し手が伝えたいことを聞き取る	
11	Lesson 7 Design for Change	・仮定法過去 ・I wish＋仮定法過去 ・話し手が伝えたいことを聞き取る ・議論を進める ・議論に参加する	
12	Lesson 8 For Our Future	・間接疑問文	
1	Reading Lesson 3 Learning from Nature	・物語文の内容理解 ・説明文の内容理解 ・都立高校学力選抜検査問題の解き方の理解	授業における行動観察 プリント等提出物 発言・発表 定期考査 自己評価カード
2	都立高校学力選抜検査問題演習		
3			

6 音楽科

(1) 観点別学習状況の評価例

■教科の目標 ※『学習指導要領』 (平成29年告示)参 照	知識及び技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力人間性等
	曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。	音楽表現を創意工夫することや、音楽のよさや美しさを味わって聴くことができるようにする。	音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽を愛好する心情をはぐくむとともに、音楽に対する感性を豊かにし、音楽に親しんでいく態度を養い、豊かな情操を養う。
■教科の「評価の観点及びその趣旨」 ※『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料』参照	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	・曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解している。 ・創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け歌唱、器楽、創作で表している。	音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら知覚したこととの関わりについて考え、どのように表すかについて思いや意図をもったり、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴いたりしている。	音や音楽、音楽文化に親しむことができるよう、音楽活動を楽しみながら、主体的、協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。
○授業の構想と学習評価例	【例】歌唱「明日の空へ」 知「明日の空へ」の曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解している。 技創意工夫を生かし、全体の響きや各声部の声などを聴きながら他者と合わせて歌う技能を身に付け、歌唱で表している。 【授業での取り組み】 ・教師による指導や、パートでの音とりなど、生徒同士の声を聴き合い、教え合う活動。 【評価】 ・上記の内容が身に付いているか ・自分の考えをプリントや自己評価カードに言葉で表現することができるか ・パート練習の様子	思「明日の空へ」の旋律、テクスチュア、強弱を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ、その関わりについて考えている。 思知覚・感受したこととの関わりについて考え、「明日の空へ」をどのように歌うかについて思いや意図をもっている。 【授業での取り組み】 ・教師による指導や、パートでの音とりなど、生徒同士の声を聴き合い、教え合う活動 ・プリント等への記入 【評価】 ・上記の内容が身に付いているか ・自分の考えをプリントや自己評価カードに言葉で表現することができるか ・パート練習の様子	態「明日の空へ」の曲想や歌詞の内容、声部の役割と全体の響きなどに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に合唱の学習活動に取り組もうとしている。 【授業での取り組み】 ・教師による指導や、パートでの音とりなど、生徒同士の声を聴き合い、教え合う活動 ・プリント等への記入 【評価】 ・上記の内容が身に付いているか ・自分の考えをプリントや自己評価カードに言葉で表現することができるか、また、学習した内容を振り返り、生かそうとしているか ・パート練習の様子

(2) 年間指導計画

音楽科の目標

音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽を愛好する心情をはぐくむとともに、音楽に対する感性を豊かにし、音楽に親しんでいく態度を養い、豊かな情操を養う。

音楽科 第3学年の目標

- (1) 曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付ける。
- (2) 曲にふさわしい音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴くことができるようになる。
- (3) 主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習に取り組み、音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽文化に親しむとともに、音楽によって生活を明るく豊かなものにし、音楽に親しんでいく態度を養う。

月	題材名	指導内容	評価方法
4	日本の歌のよさや美しさを理解して歌唱表現を工夫しよう 《歌唱》花	- 詩や曲の背景を理解する。 - 情景を思い浮かべながら、言葉を大切に合唱する。	- 授業 - 実技テスト - ワーク、プリント - 定期考査
5	オペラに親しみ、その魅力を味わおう 《鑑賞》 アイダ	- オペラに親しみ、その音楽を理解する。 - オペラと音楽の歴史について理解する	グループワークの取り組み
6	楽器の音色と奏法の関わりを理解して演奏しよう 《器楽》ウクレレ	基礎的な奏法を理解する。	
7	曲想と音楽の構造との関わりを理解して歌唱表現を工夫しよう 《合唱》群青	- 混声3部合唱 - 曲の構成や曲想の変化を生かして合唱する。 - 作者のメッセージを受け止め、思いをこめて合唱する。	
9	曲想と歌詞の内容との関わりを理解して歌唱表現を工夫しよう 《合唱》群青 自由曲	- 混声3部合唱 - 曲の構成や曲想の変化を生かして合唱する。 - 作者のメッセージを受け止め、思いをこめて合唱する。	- 授業 - 実技テスト - ワーク、プリント - 定期考査 - パート練習の取り組み - グループワークの取り組み
10	歌舞伎に親しみその魅力を味わおう 《鑑賞》歌舞伎「勧進帳」	- 歌舞伎に親しみ、その音楽を理解する。 - 歌舞伎や他の芸術との関わりを理解する。	
11	楽器の音色と奏法との関わりを理解して創作表現を工夫しよう 《創作》 ウクレレのコードを使い創作しよう	簡単なコード進行で演奏する。	
12			
1	曲想と音楽の構造との関わりを理解して歌唱表現を工夫しよう 《合唱》 旅立ちの日に	- 混声3部合唱 - 曲の構成や曲想の変化を生かして合唱する。 - 作者のメッセージを受け止め、思いをこめて合唱する。	- 授業 - 実技テスト - ワーク、プリント - 定期考査 - パート練習の取り組み - グループワークの取り組み
2	卒業式の式歌		
3			

7 美術科

(1) 観点別学習状況の評価例

■教科の目標 ※『学習指導要領』 (平成29年告示)参 照	知識及び技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力人間性等
	対象や事象を捉える造形的な視点について理解するとともに、表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。	造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。	美術の創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を育み、感性を豊かにし、心豊かな生活を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う。
■教科の「評価の観点及びその趣旨」 ※「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料」参照	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	- 対象や事象を捉える造形的な視点について理解している。 - 表現方法を創意工夫し、創造的に表している。	造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫、美術の働きなどについて考えるとともに、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。	美術の創造活動の喜びを味わい主体的に表現及び鑑賞の幅広い学習活動に取り組もうとしている。
○授業の構想と学習評価例	「ピクトグラムを考えよう(デザイン)」 知識 形などの性質や、それからもたらす効果、場所や造形的な特徴などを基に、全体のイメージで捉えることができる。 技能 意図に応じて表現方法を創意工夫して、制作の順序などを総合的に考えながら、見通しをもって造形的に表している。 【評価材料】 授業観察 ワークシート 作品 定期テスト	「ピクトグラムを考えよう(デザイン)」 発想 伝える相手や施設、場所などのイメージなどから主題を生み出し、形がもたらす効果や、分かりやすさと美しさなどの調和、統一感などを総合的に考え、表現の構想を練っている。 鑑賞 伝達のデザインの調和のとれた洗練された美しさなどを取り、表現の意図と造形的な工夫などについて考えるなどして、見方や感じ方を深めている。 【評価材料】 授業観察 ワークシート 作品 定期テスト	「ピクトグラムを考えよう(デザイン)」 態度・表現 主体的に主題を生み出し、統一感などを総合的に考え構想を練り、意図に応じて創意工夫し見通しをもって表現の学習活動に取り組もうとしている。 態度・鑑賞 主体的に伝達のデザインの調和のとれた洗練された美しさなどを感じ取り、意図と創造的な工夫などについて考えるなどの見方や感じ方を深めながら学習活動に取り組もうとしている。 【評価材料】 授業観察 ワークシート 作品

(2) 年間指導計画

美術科の目標

表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

美術科 第3学年の目標

- (1) 対象や事象を捉える造形的な視点について理解するとともに、意図に応じて自分の表現方法を追求し、創造的に表すことができるようにする。
- (2) 自然の造形や美術作品などの造形的なよさや美しさ、表現の意図と造形的な工夫。機能性と洗練された美しさとの調和、美術の働きなどについて独創的・総合的に考え、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができる。
- (3) 主体的に美術の活動に取り組み創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を深め、心豊かな生活を創造していく態度を養う。

月	単元名	指導内容	評価方法
4	工芸・デザイン・鑑賞 「扇子のデザイン」	・使う場所や目的を考え、実用性と装飾性とを兼ねそなえた、扇子のデザインを考える。 ・参考作品や生徒作品の鑑賞から、発想や工夫しているところを見付ける。	・授業観察 ・ワークシート ・アイデアスケッチ ・作品 ・定期テスト
5			
6			
7			
9	彫刻・鑑賞 「抽象彫刻」	・抽象と具象の違いを学習する。 ・抽象とは、抽象形とは何かを学習する。 ・石彫で抽象形の作品を制作する。 ・参考作品や生徒作品の鑑賞から、発想や工夫しているところを見付ける。	・授業観察 ・ワークシート ・作品 ・定期テスト
10			
11			
12			
1			
2			
3			

8 保健体育科

(1) 観点別学習状況の評価例

■教科の目標 ※『学習指導要領』 (平成29年告示)参照	知識及び技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力人間性等
	各種の運動の特性に応じた技能等及び個人生活における健康・安全について理解するとともに、基本的な技能を身に付けるようにする。	運動や健康についての自他の課題を発見し、合理的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。	生涯にわたって運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かな生活を営む態度を養う。
■教科の「評価の観点及びその趣旨」 ※『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料』参照	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	運動の合理的な実践に関する具体的な事項や生涯にわたって運動を豊かに実践するための理論について理解しているとともに、運動の特性に応じた基本的な技能を身に付けている。また、個人生活における健康・安全について科学的に理解しているとともに、基本的な技能を身に付けている。	自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて、課題に応じた運動の取り組み方や目的に応じた運動の組み合わせ方を工夫しているとともに、それらを他者に伝えている。また、個人生活における健康に関する課題を発見し、その解決を目指して科学的に思考し判断しているとともに、それらを他者に伝えている。	運動の楽しさや喜びを味わうことができるよう、運動の合理的な実践に自主的に取り組もうとしている。また、健康を大切にし、自他の健康の保持増進や回復についての学習に自主的に取り組もうとしている。
○授業の構想と学習評価例	運動の特性や成り立ち、技の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力や高め方、表現の仕方、伝統的な考え方、発表の仕方などを理解し、身に付ける。 《授業での取り組み》 ・実技練習、発表、記録会、試合。 ・健康・安全についての理解。 《評価》 ○期末考査 ○実技テスト ・個人技能（記録、技、フォーム、表現、発表） ・チーム内での活動における技能評価（攻防の仕方、動き） ・試合での活動における技能評価 ○準備運動など ○保健、体育理論	自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に言葉や文章、動作などで伝えることができる。 《授業での取り組み》 ・課題を設定し、取組方法を工夫・改善する。 ・グループでの学び合い、話し合い活動。 ・学習カードへの記入。 《評価》 ○学習カード ○その日の「ねらい」を意識して考えながら取り組み、表現している。 ○練習や試合の活動（個人、グループ）における取り組み。 ○保健、体育理論	運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、一人一人の違いを認めようとする、健康・安全に留意する、自己の最善を尽くして運動をする。 各種目に積極的に取り組み、技能や体力の向上を図る。また、上達するために繰り返し粘り強く取り組む。 《授業での取り組み》 ・個人やチームの課題への継続的な取り組み。 ・協力し最善を尽くす取り組み姿勢。 ・学習カードへの記入。 《評価》 ○毎時間の行動、準備片付け ○学習カード ○保健、体育理論 ○各種目の取り組む姿勢

(2) 年間指導計画

保健体育科の目標

体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を養う。

保健体育科 第3学年の目標

- 1 運動の合理的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを味わい、生涯にわたって運動を豊かに実践することができるようにするため、運動、体力の必要性について理解するとともに、基本的な技能を身に付けている。
- 2 自己の課題を自らで考え、発見し、合理的な解決に向けて思考し判断するとともに、課題に応じた運動の組み方や運動の組み合わせ方を工夫し、自己や仲間が考えたことを分かりやすく他者に伝えている。
- 3 運動における競争や協働の経験を通して、公正、協力、責任、参画、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を持ち、健康・安全を確保し、生涯にわたって運動に親しもうとしている。

月	単元名	指導内容	評価方法
4	集団行動 体づくり運動	集団行動 ・体ほぐしの運動 ・体力を高める運動	行動観察,テスト 学習カード,テスト 行動観察 定期考査 実技テスト 学習カード
5	運動会練習 陸上競技	・短距離走 ・リレー ・ハードル走	
6	体づくり運動（体力測定）	・新体力テスト	
7	球技 体育理論 保健	・バレーボール ・文化としてのスポーツ ・健康な生活と病気の予防	
8	水泳	・水慣れ ・クロール・平泳ぎ・背負泳ぎ・バタフライ	
9	陸上競技	・走り幅跳び・走り高跳び	行動観察 定期考査 実技テスト 学習カード
10	球技	・ハンドボール	
11	陸上競技 ダンス	・長距離走 ・ダンス	
12	体育理論 保健	・文化としてのスポーツ ・健康と環境	
1	武道	・柔道	
2	体育理論 保健	・文化としてのスポーツ ・健康と環境	行動観察 定期考査 実技テスト 学習カード
3	球技	・サッカー	

9 技術・家庭科(技術分野)

(1) 観点別学習状況の評価例

■教科の目標 ※『学習指導要領』 (平成29年告示)参 照	知識及び技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等
	生活や社会で利用されている材料、加工、生物育成、エネルギー変換及び情報の技術についての基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付け、技術と生活や社会、環境との関わりについて理解を深める。	生活や社会の中から技術に関わる問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、製作図等に表現し、試作等を通じて具体化し、実践を評価・改善するなど、課題を解決する力を養う。	よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、適切かつ誠実に技術を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。
■教科の「評価の観点及びその趣旨」 ※『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料」参照	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	生活や社会で利用されている技術について理解しているとともに、それらに係る技能を身に付け、技術と生活や社会、環境との関わりについて理解している。	生活や社会の中から技術に関わる問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、技術を工夫し創造しようとしている。
○授業の構想と学習評価例	・エネルギー変換についての科学的な原理・法則と、エネルギー変換の基礎的な技術のしくみを説明できる。 《授業での取組》 ・生活や社会を支えるエネルギー変換の技術の例や、問題解決の工夫について調べる。 《評価》 ・ワークシート ・レポート ・テスト	・エネルギー変換の技術に込められた工夫を読み取り、エネルギー変換の技術の見方・考え方に気づくことができる。 《授業での取組》 ・生活や社会を支えるエネルギー変換の技術の例や、問題解決の工夫について調べる。 《評価》 ・ワークシート ・レポート	・進んでエネルギー変換の技術と関わり、主体的に理解し、技能を身に付けようとしている。 《授業での取組》 ・生活や社会を支えるエネルギー変換の技術の例や、問題解決の工夫について調べる。 《評価》 ・ワークシート ・レポート

技術・家庭科（技術分野）の目標

技術の見方・考え方を働かせ、ものづくりなどの技術に関する実践的・体験的な活動を通して、技術によってよりよい生活や持続可能な社会を構築する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

技術・家庭科（技術分野） 第3学年の目標

(1) 生活や社会で利用されている情報の技術についての基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付け、技術と生活や社会、環境との関わりについて理解を深める。

(2) 生活や社会の中から技術に関わる問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、製作図等に表現し、試作等を通じて具体化し、実践を評価・改善するなど、課題を解決する力を養う。

(3) よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、適切かつ誠実に技術を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。

月	単元名	指導内容	評価方法
4	情報の技術 ・生活や社会と情報の技術 ・情報とコンピュータ ・情報の表現と伝達 ・情報セキュリティと情報モラル	○情報の技術が生活や社会で果たしている役割に気づく。 ○情報の技術に関する製品やサービスに込められた工夫やしくみを調べる。	・定期考査 ・学習への取組 ・ワークシート
5		○コンピュータの構成、コンピュータの機能と装置、計測・制御システム、プログラムによる処理の自動化、処理の流れや手順を表す方法、情報のデジタル化、デジタル情報の特徴を知る。	
6		○情報の表現手段やコンテンツの特徴を知る。 ○情報通信ネットワークのしくみを知る。 ○Web における情報の表現方法を知る。	
7		○情報セキュリティの重要性と危険を防ぐための技術を知る。 ○情報モラルの必要性を知り、情報社会で人権などの権利を尊重する必要性を考える。 ○知的財産を保護する必要性と利用方法を知り、望ましい活用を考える。	
9	・双方向性のあるコンテンツによる問題解決 ・計測・制御による問題解決	○双方向性のあるコンテンツのプログラミングを利用した問題解決の手順を知る。 ○ネットワークを利用した双方向性のあるコンテンツのプログラミングによる問題解決を行う。	・定期考査 ・学習への取組 ・ワークシート ・制作物
10			
11		○計測・制御のプログラミングを利用した問題解決の手順を知る。 ○生活や社会における問題を、計測・制御のプログラミングによって解決する。	
12			
1	・これからの情報の技術	○情報の技術での学習をふり返り、技術の見方・考え方について考える。 ○情報の技術を評価し、適切な選択と管理・運用のあり方や、新たな発想に基づく改良と応用について考える。	・定期考査 ・学習への取組 ・ワークシート
2			
3		○技術分野の学習をふり返る。 ○技術の工夫・創造と私たちの未来について考える。	

家庭科

(1) 観点別学習状況の評価例

■教科の目標 ※『学習指導要領』	知識及び技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等
	家族・家庭の基本的な機能について理解を深め、生活の自立に必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて理解しているとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。	これからの生活を展望し、家族・家庭や地域における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを理論的に表現するなどして課題を解決する力を養う。	家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして生活を工夫し創造し、実践しようとする態度を養う。
■教科の「評価の観点及びその趣旨」 ※『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料』参照	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	・家族・家庭の基本的な機能について理解している。 ・生活の自立に必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて理解しているとともに、それらに係る技能を身に付けている。	これからの生活を展望し、家族・家庭や地域における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを理論的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	家族や地域の人々と協働しよりよい生活の実現に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして生活を工夫し創造し、実践しようとしている。
○授業の構想と学習評価例	食生活や衣生活、住生活、家族・家庭生活、消費生活、環境について理解し、実践することができる。 ＜授業での取り組み＞ 家庭生活に関する基礎的・基本的な学習 （「考えてみよう」から、考え方を共有したり、作業の時は教えあったりする学習活動） ＜評価＞ ・学習内容がきちんと身に付いているか ・作品やプリント等、提出日に出しているか ・グループでの話し合いの時気づきがあるか	それぞれの領域で学習したことについて、問題を見いだして課題を設定し、考察し表現することができる。 ＜授業での取り組み＞ 家庭生活に関する基礎的・基本的な学習 （考えを発表し、共有することができ、互いに高めあう学習活動） ＜評価＞ ・自分の考えを正しい表現で発表することができるか ・プリントやワーク等、正確に記入されているか ・グループでの話し合いを基に考察し表現することができるか	それぞれの領域で学習したことについて、課題の解決に取り組み、振り返って、生活を工夫し実践しようとしている。 ＜授業での取り組み＞ 家庭生活に関する基礎的・基本的な学習 （学んだことを生活にいかせるように自ら取り組む学習活動） ＜評価＞ ・作品やプリント・ワーク等への取り組み状況 ・学習した内容を振り返り、次に生かそうとしているか。 ・学習に積極的に取り組んでいるか（発言、作品等）

③ 3学年

家庭科 第3学年の目標

- (1) 家族や地域の人とかかわり、たがいに尊重し、共に生きる生活を創造していく力を養う。
 (2) 幼児の生活と家族を学習し、総合的なまとめとして、ポートフォリオの製作ができる力を養う。

月	単元名	指導内容	評価方法
4	A 編 第2章 幼児の生活と家族 (5) ・ 幼児の身体の発達 ・ 幼児の心の発達 ・ 幼児の生活習慣 ・ 幼児の生活 ・ 幼児の遊びと発達 ・ 幼児の発達を支える大人の役割 ・ 作品 (ポートフォリオ)	・ 幼児の体の発達 ・ 幼児の心の発達 ・ 幼児の生活習慣 ・ 幼児の生活の特徴 ・ 幼児の睡眠、食事 ・ 幼児の遊び ・ 幼児の心身の発達と遊び ・ 幼児の遊び道具 ・ 幼児の発達を支える家族の役割 ・ ポートフォリオの製作についてテーマ決め、資料収集、製作方法	・ 定期考査 ・ ワーク ・ プリント
5			
6			
7			
9	・ 作品 (ポートフォリオ製作) (5) ・ 子供の健やかな成長のために (2)	・ 下書き ・ 清書 ・ 児童憲章、子どもの権利条約 ・ 児童虐待の防止 ・ ユニセフ	・ 定期考査 ・ ワーク ・ プリント ・ 作品
10			
11			
12			
1	C 編 第2章 消費者の権利と責任 (5) ・ 消費者の権利 ・ 消費者の責任 ・ 消費生活が社会に与える影響 ・ 環境に及ぼす影響	・ 悪質商法の問題点 ・ クーリングオフ ・ 消費者トラブルの相談先 ・ 消費者の権利と責任 ・ 買い物の社会的な意味 ・ 地球温暖化と消費者	・ 定期考査 ・ プリント ・ ワーク
2			
3			